

2025 年 9 月 22 日

豊岡市長 門間 雄司 様

豊岡市歩いて暮らすまちづくり審議会

会長 佐藤 真治

歩いて暮らすまちづくり構想の推進について（答申）

豊岡市歩いて暮らすまちづくり条例（平成 24 年豊岡市条例第 15 号）に基づき、本審議会に諮問のありました施策の評価について、去る 8 月 28 日に審議会を開催し、委員の視点や学術的な見地から評価を行い、構想が目指す姿の実現を図る観点から審議した結果、下記のとおり答申します。

記

1 2024 年度及び 2025 年度における歩いて暮らすまちづくり施策の評価について

- (1) 地域の健康づくり活動への高齢者の参加は多い一方で、若い世代の参加が伸び悩んでおり、世話役の担い手など後継者不足が課題となっており、課題解消に向けた取組が必要である。
- (2) “歩くこと”が生活習慣病予防や運動習慣の改善に効果があることは周知されてきたが、今後は“歩くこと”が「身体の健康」だけでなく、「心の健康」や「脳の健康」にも良い影響を及ぼすことに着目した広報活動が必要である。
- (3) 現在の「歩いて暮らすまちづくり構想」は「身体の健康」に軸足が置かれているが、今後は「心の豊かさ」や「幸福感（ウェルビーイング）」への対応が必要である。

2 今後の施策の方向性について

(1) 地域の健康づくり活動における「世話役等の担い手不足」への対応の検討

地域活動の担い手不足は、持続可能なまちづくりにおける深刻な課題である。担い手の心理的負担を軽減するため、役割分担の明確化と柔軟な対応が必要と思われる。

具体的には、多世代が参加しやすい仕組みづくりと明確な役割設計による「関わりやすい仕組み」の構築、定年退職後の比較的時間に余裕のある世代に特化した呼びかけについて検討されたい。

(2) 地域の健康づくり活動における若い世代の参加促進の検討

若い世代（特に 40～50 代）を中心に、経済的余裕や時間的余裕の乏しさから地域活動への参加が低調となっている。コストパフォーマンス重視の傾向を踏まえた、若い世代の参加意欲が高まるような仕組みが必要である。

具体的には、若い世代が「得になる・気楽にできる・楽しい・（世代間で）つながれる」と感じ、地域活動につながる仕組みの構築や運動健康ポイント制度の充実を検討されたい。

(3) “歩くこと”の心身の健康への影響の情報発信について

“歩くこと”の効果については、当初の目的であった「身体の健康（生活習慣病予防）」に加え、近年は「心の健康」や「脳の健康」、さらには「ウェルビーイング（幸福感）」への関心が高まっている。歩くことがもたらす心の安定や、認知症予防、睡眠障害の改善などの効果について広く周知される機会が必要であると考ええる。

具体的には、年齢層や体力に応じた運動内容の周知や、楽しく続けられる仕組みの提供が重要であり YouTube 等を活用したデジタル展開を推進することを検討されたい。

(4) “歩いて暮らすまちづくり構想”の見直しの検討

社会の価値観やライフスタイルの変化に応じ、「歩いて暮らすまちづくり構想」も新たな展開が求められている。特に「ウェルビーイング（幸福感）」という視点を取り入れ、身体・心・社会的つながりを包括的にとらえるアプローチが必要であると考ええる。今後は、単なる「歩数」や「運動量」の指標にとどまらず、市民の幸福感や満足度、歩くことの効果を指標とする構想への進化を検討されたい。

具体的には、新たな歩いて暮らすまちづくり構想策定に向けた専門家や市民参加型ワークショップの実施や、ウェルビーイングをキーワードとした施策体系の再構築を検討されたい。